

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語・日本文学科	夜・通信	3	6	5	14	13	-
	英語学科		2	6	6	14	13	-
	アジア文化学科		4	6	4	14	13	-
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース	夜・通信	-	-	14	14	13	-
	人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース		-	4	10	14	13	-
	人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース		-	-	14	14	13	-
	人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース		-	-	14	14	13	-
現代社会学部	現代社会学科	夜・通信	2	4	8	14	13	-
(備考) ・2021年度に配置されている授業科目により記載 文学部/人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻/現代社会学部 1・2・3年生は2019年度課程 4年生は2015年度課程 人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻 1・2・3年生は2019年度課程 4年生は2018年度課程								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

(ホームページ)

・実務経験のある教員等による授業科目

(実務経験のある教員による授業科目の単位数)

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/personnel/jitsumu>

(実務経験のある教員による授業科目)

・Web シラバス

<https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/>

※実務経験のある教員の科目については、シラバスで検索が可能。

(シラバスの検索：キーワード「実務経験」で検索)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園のホームページ https://www.chikushi.ac.jp/information/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職) 公立大学副学長	2020. 6. 1 ～ 2023. 5. 1	教務
非常勤	現職) 住職	2020. 6. 1 ～ 2023. 5. 31	総務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている</p> <p>・授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』を作成し、シラバスに関するFDを開催する。 2. 本学が策定した「三つの方針」のうち特にDPに対し、各学科・専攻がどのような学生を育てたいのか、カリキュラム全体を俯瞰してカリキュラムチェックを行う。シラバスに関するFDではその結果を踏まえ、「何を学び、どのような力を身に付けることができるか」を、シラバスにおいて明確にすることを目指す。 3. 作成後のシラバスは、第三者によるチェックを行い、必要に応じて修正。その後学内ポータルサイトおよびHPにおいてシラバスを公開する。 <p>(シラバス内容)</p> <p>基本項目：科目名、担当教員、配当学年、単位数、開講年度学期、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)、資格科目(特別課程専門科目)、この授業が目的としているDP、授業外学修時間</p> <p>入力項目：授業の目的と概要、到達目標、関連する科目、授業計画(授業の回数/授業内容/授業の方法/授業外(事前事後)学習)、定期試験の実施について、成績評価方法と評価基準、課題に対するフィードバックの方法、受講上の注意点・ルールに係る情報を明示。授業に関する実務経験、オフィスアワーも記載。</p> <p>※シラバスに関しては、授業の進行状況や、実施に合わせ随時変更が可能としており、到達目標に向けて、学生の学修意欲と学修計画を促している。</p> <p>・授業計画書(シラバス)の作成および公表時期</p> <p>10～11月：カリキュラムチェック、12月：シラバスに関するFD、12～1月：シラバス作成、2月：シラバスチェック、3月 Web シラバス公開</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>(ホームページ) ・Web シラバス https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/ ※実務経験のある教員の科目については、シラバスで検索が可能。(シラバスの検索：キーワード「実務経験」で検索) ・『シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～』 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている</p> <p>『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』および『成績評価のガイドライン』において、成績評価基準や評価方法を定めている。</p> <p>また、学則の「第5章 教育課程及び履修方法等」および履修規程の「第4章 単位」においても、評価や履修について定めている。(学則 (HP 公表)、『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開)</p> <p>各授業科目の学修成果の評価は、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示された成績評価の方法や基準により、各授業科目において学修成果の評価を行い、これに基づき、厳格かつ適正に単位授与や履修認定を実施している。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている

- ・GPA等の客観的な指数の具体的な内容
- ・客観的な指標の適切な実施状況

【成績評価・GPA (Grade Point Average)】

履修した科目の評価は5段階の評定とし、卒業に必要な単位を修得するためだけではなく、主体的にかつ充実した学びにするための制度として、GPA(Grade Point Average)を導入している。

■成績評価・GPA 算出基準

可否	評価	評点	グレードポイント
合格	秀 (S)	90～100点	4.0
	優 (A)	80～89点	3.0
	良 (B)	70～79点	2.0
	可 (C)	60～69点	1.0
不合格	不可 (D) (※1欠席 ※2無資格を含む)	59点以下	0.0

■GPAの計算式と対象

$$\frac{(4.0 \times \text{秀の修得単位数}) + (3.0 \times \text{優の修得単位数}) + (2.0 \times \text{良の修得単位数}) + (1.0 \times \text{可の修得単位数}) + (0.0 \times \text{不可の単位数})}{\text{総登録単位数}}$$

以下の科目はGPAの計算式の対象外となる。

- ①卒業単位にならない科目 (教職課程などの特別課程)
- ②単位認定科目「N」

※1 試験を欠席した場合、評価は「欠席」となる。

※2 授業出席日数が不足している場合、評価は「無資格」となる。

また、学修成果の評価と卒業認定基準をHPで公表すると共に、『成績評価のガイドライン』において、以下の項目について策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。

- ①シラバスの作成と閲覧
- ②成績評価 (GPA 算出基準と算出方法)
- ③履修登録単位制限 (CAP 制)
- ④単位と学修の量

なお、①～④については、『学生便覧～学生のための手引き～』（刊行物：入学時学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開）に明示。

GPA については、所属する学部等の中で各学生がどの位置にあるか（成績の分布状況）を把握することができるよう、学内ポータルサイトに公表する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	(ホームページ) ・学修成果の評価と卒業認定基準 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・成績評価のガイドライン https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

卒業の認定については、学則の第6章「卒業及び学位」において、卒業の要件および卒業の認定および学位について定めている。

第6章 卒業及び学位 (学則より抜粋)

(卒業の要件)

第27条 本学を卒業するためには、学生は4年以上在学し、別表第一(1)から別表第一(9)に定める授業科目について、別表第一(10)において、所属学科又は専攻ごとに定める単位数を修得しなければならない。

2 学生は、第23条により履修した他学部等の科目を、20単位を限度として、卒業に必要な自由選択科目の単位数に組み入れることができる。

(卒業の認定及び学位)

第28条 本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。

学部	学科・専攻	学位
文学部	日本語・日本文学科	学士(文学)
	英語学科	学士(文学)
	アジア文化学科	学士(文化学)
人間科学部	人間科学科	心理・社会福祉専攻 学士(人間科学)
		初等教育・保育専攻 学士(人間科学)
現代社会学部	現代社会学科	学士(現代社会)

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定・学位授与の方針(DP)と教育課程編成・実施の方針(CP)、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位)を定め公表(HP)している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の(卒業の認定及び学位)第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則(HPにて公表)および『学生便覧』(刊行物:入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開)にて明示。

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>(ホームページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業認定・学位授与の方針 (DP) : https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf ・ 学修成果の評価と卒業認定基準 : https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・ 卒業判定要件および学位 : https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement ・ 大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/ <p>【刊行物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『学生便覧』刊行物 : 入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.chikushi.ac.jp/information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.chikushi.ac.jp/information/
財産目録	https://www.chikushi.ac.jp/information/
事業報告書	https://www.chikushi.ac.jp/information/
監事による監査報告(書)	https://www.chikushi.ac.jp/information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose
（概要） 文学部は、建学の精神に基づく確かな人間観を基盤として、多様な言語・文化を通して人間の生き方を学び、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもって社会の発展に貢献できる女性の育成を目的とする。 ◎日本語・日本文学科 日本語・日本文学科は、日本語・日本文学・日本文化に関する専門知識を基盤に、豊かな確かな言語感覚と表現力、論理的な思考力を身につけて、社会の幅広い分野で活躍できる女性を育成する。 ◎英語学科 英語学科は、英語学や英語圏の文学など文化に関する専門知識を基盤に、高度な英語コミュニケーション能力と他者に共感できる国際感覚を身につけて、グローバル化する社会で活躍できる女性を育成する。 ◎アジア文化学科 アジア文化学科は、言語、社会、文化の観点からアジアの多様な社会事情について多角的、体験的に理解を深め、広い視野と共感をもって、国際共生社会の実現に貢献できる女性を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物） 【ホームページ】 ・卒業認定・学位授与の方針（DP）： https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf ・学修成果の評価と卒業認定基準： https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・卒業判定要件および学位： https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement ・大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/ 【刊行物】 ・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開
（概要） 卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判定については、学則の第 6 章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第 28 条「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。 卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HP にて公表）および『学生便覧』

(刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開)にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ)

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

・カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP (ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針)」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目 (基盤科目-基幹科目-発展科目)」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」(DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの)や「カリキュラム・ツリー」(DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの)を作成している。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としている。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

(学修成果の評価の方針)

本学の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP) を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並びに「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限 (CAP制) を導入している。

(教育内容の点検・改善)

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付

けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

（概要）

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎文学部 日本語・日本文学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1) 日本語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能力の向上を目指す人
 - (2) 日本語や日本の文学、文化等に興味・関心を持っている人
 - (3) 高等学校の国語において十分な学習を修め、古典に関しても学習している人

求める志願者の能力・取組み例

- ・読書への深い関心と、文芸創作能力
- ・日本語および日本の文学・文化に関する課外活動
- ・地域の活動や文化的な行事への積極的な参加

- ・書道などの日本の伝統的な文化活動への積極的な取り組み
- ・日本語や漢字能力ほか、各種検定等への取り組み

◎文学部 英語学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)英語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能の向上を目指す人
 - (2)英語圏の文学、文化等に興味・関心を持っている人
 - (3)高等学校の英語において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取り組み例

- ・優れた英語コミュニケーション能力
- ・英語圏における語学研修や留学への積極的な参加
- ・英語および英語圏の文学・文化に関する課外活動
- ・英語に関する各種検定等への取り組み

◎文学部 アジア文化学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)多様なアジア社会に興味・関心を持ち、視野を広げたい人
 - (2)アジアの言語に興味を持ち、コミュニケーション能力を身に付けたい人
 - (3)アジアの文化を体感し、その歴史を理解したい人
 - (4)高等学校の社会の科目（世界史、地理、政治・経済、日本史など）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・ 基礎的な言語コミュニケーション能力
- ・ 中国語や韓国語などの基礎的な学習体験
- ・ 海外（特にアジア諸国）における語学研修や留学への積極的な参加
- ・ アジアの国々や人々との交流プログラム参加
- ・ 英語、中国語、韓国語ほか諸言語に関する各種検定等への取組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、合否を判定する。

学部等名 人間科学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose>

（概要）

人間科学部は、建学の精神に則って、人間の生涯発達や生活を取り巻く諸課題に対する科学的認識を深め、その解決に向けて適切に対処するための実践的な知識と技術をもって、人間が互いに支え合って生きることを支援する社会づくりに貢献できる女性の育成を目的とする。

◎心理・社会福祉専攻（発達臨床心理コース／社会福祉コース）

心理・社会福祉専攻は、人間の生涯発達及び人間と社会に関する科学的認識を基盤として、家庭や地域・職場などの生活場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもって、人間・社会支援に貢献できる女性を育成する。

◎初等教育・保育専攻（初等教育コース／幼児保育コース）

初等教育・保育専攻は、人間の生涯発達と心の働きに対する科学的認識を基盤として、子どもの発達を取り巻く場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもつ支援者として、人間・社会に貢献できる女性を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物）

【ホームページ】

- ・ 卒業認定・学位授与の方針（DP）：

https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf

- ・ 学修成果の評価と卒業認定基準：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard

- ・ 卒業判定要件および学位：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement

・大学学則

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/>

【刊行物】

・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HPにて公表）および『学生便覧』（刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開）にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目（基盤科目-基幹科目-発展科目）」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）や「カリキュラム・ツリー」（DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの）を作成している。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としている。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶこと

を支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

(学修成果の評価の方針)

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並びに「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限（CAP制）を導入している。

(教育内容の点検・改善)

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

(概要)

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)ひとの心の仕組みについて、科学的に探求したい人
 - (2)ひとの心の苦しみを理解するため、そのひとに寄り添って共に成長したいと願っている人
 - (3)高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、倫理など）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や各種ボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)社会の様々な問題や課題への関心を持ち、人間に共感する感性を持っている人
 - (2)人間が人間らしく生きられる公正な社会の実現に関心を持ち、その担い手になりたいと考えている人
 - (3)高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、日本史など）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・高等学校における福祉、介護、看護などの十分な学習と課外活動
- ・地域の活動や福祉に関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部 人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1) 人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
 - (2) 子どもの成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
 - (3) 高等学校のすべての学習について、積極的に取り組んでいる人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や子どもの発達などに関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部 人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1) 人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
 - (2) 乳幼児の成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
 - (3) 高等学校のすべての学習について、積極的に取り組んでいる人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や子どもの発達などに関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、合否を判定します。

学部等名 現代社会学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose>

（概要）

現代社会学部は、社会学の基礎を理解し、調査・分析の能力を身につけたうえで、現代社会についてビジネス社会、メディア社会、環境共生社会のうちいずれかの領域を中心に学ぶ。問題解決力、コミュニケーション能力、主体性・リーダーシップを持った職業人として多様な場において社会の発展に貢献できる女性を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物）

【ホームページ】

- ・卒業認定・学位授与の方針（DP）：

https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf

- ・学修成果の評価と卒業認定基準：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard

- ・卒業判定要件および学位：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement

- ・大学学則

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/>

【刊行物】

- ・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判

定については、学則の第6章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HPにて公表）および『学生便覧』（刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開）にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

（概要）

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

（教育課程の編成）

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目（基盤科目-基幹科目-発展科目）」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）や「カリキュラム・ツリー」（DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの）を作成している。

（教育の実施・教育方法）

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としている。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

（学修成果の評価の方針）

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並び

に「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限（CAP制）を導入している。

（教育内容の点検・改善）

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

（概要）

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎現代社会学部 現代社会学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

- (1) 現代社会を「ビジネス」「地域デザイン」「メディアデザイン」「ポピュラー文化」と関連づけて学ぶことに興味があり、理解を深めたい人
- (2) 社会学の基礎を理解し、データを作成したり分析したりする能力を身に付けた人
- (3) 高等学校の社会の科目（現代社会、倫理、政治・経済、世界史、日本史、地理）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・ 地域の活動や各種ボランティア活動への積極的な参加
- ・ 各種検定や様々な資格取得への取組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、可否を判定します。

②教育研究上の基本組織に関すること

（公表方法：ホームページ）

- ・ 教育研究上の組織

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/>

- ・ 教学マネジメント体制

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/教学マネジメント体制.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	18人	11人	3人	0人	0人	32人
人間科学部	—	16人	18人	4人	0人	0人	28人
現代社会学部	—	13人	4人	3人	0人	0人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			162人				162人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.chikushi-u.ac.jp/about/scholarship/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教職員は、学士課程教育の實踐に直接又は間接に携わり、相互に連携して管理運営等を担っている。基盤となす教職員の資質向上の為には、学士課程教育の實踐と管理運営を担う教職員の資質と能力に負うところが極めて大きい。こうした認識に立って、スタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」という。）やファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）のそれぞれの改善充実の方策が必要とされている。</p> <p>学部マネジメントの實現に向けた概念共有を進めつつ、2019年度より新たにスタートしたカリキュラム（授業）の充実のための具体的な方針を定め、取り組みを行っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	260人	239人	91.9%	1,046人	1,151人	110.0%	8人	1人
人間科学部	300人	300人	100.0%	1,180人	1,165人	98.7%	若干名	5人
現代社会学部	160人	88人	55.0%	670人	459人	68.5%	若干名	0人
合計	720人	627人	87.1%	2,896人	2,775人	95.8%	8人	6人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	247人 (100%)	8人 (3.2%)	192人 (77.7%)	47人 (19.0%)
人間科学部	268人 (100%)	9人 (3.4%)	239人 (89.2%)	20人 (7.5%)
現代社会学部	109人 (100%)	3人 (2.8%)	95人 (87.2%)	11人 (10.1%)
合計	624人 (100%)	20人 (3.2%)	526人 (84.3%)	78人 (12.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：筑紫女学園大学大学院、福岡教育大学教職大学院、久留米大学大学院				
就職先：福岡県・市教育委員会、西日本シティ銀行、九州博報堂、積水ハウス				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	267人 (100%)	223人 (83.5%)	6人 (2.2%)	21人 (7.9%)	17人 (6.4%)
人間科学部	284人 (100%)	259人 (91.2%)	3人 (1.1%)	16人 (5.6%)	6人 (2.1%)
現代社会学部	118人 (100%)	106人 (89.8%)	2人 (1.7%)	6人 (5.1%)	4人 (3.4%)
合計	669人 (100%)	588人 (87.9%)	11人 (1.6%)	43人 (6.4%)	27人 (4.0%)
(備考) 編入生を除く。「その他」は休学により在学期間を満たしていない者(卒業延期者)。中途退学者については、経済的理由や進路変更によるものが多い。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

・授業計画書（シラバス）の作成過程：

1. 毎年『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』を作成し、シラバスに関するFDを開催する。
2. 本学が策定した「三つの方針」のうち特にDPに対し、各学科・専攻がどのような学生を育てたいのか、カリキュラム全体を俯瞰してカリキュラムチェックを行う。シラバスに関するFDではその結果を踏まえ、「何を学び、どのような力を身に付けることができるか」を、シラバスにおいて明確にすることを旨とする。
3. 作成後のシラバスは、第三者によるチェックを行い、必要に応じて修正。その後学内システムおよびHPにおいてシラバスを公開する。

(シラバス内容)

基本項目：科目名、担当教員、配当学年、単位数、開講年度学期、授業形態（講義、演習、実験、実習、実技）、資格科目（特別課程専門科目）、この授業が目的としているDP、授業外学修時間

入力項目：授業の目的と概要、到達目標、関連する科目、授業計画（授業の回数/授業内容/授業の方法/授業外（事前事後）学習）、定期試験の実施について、成績評価方法と評価基準、課題に対するフィードバックの方法、受講上の注意点・ルールに係る情報を明示。授業に関する実務経験、オフィスアワーも記載。

※シラバスに関しては、授業の進行状況や、実施に合わせ随時変更が可能としており、到達目標に向けて、学生の学修意欲と学修計画を促している。

授業計画書（シラバス）・公表時期：

10～11月：カリキュラムチェック、12月：シラバスに関するFD、12～1月：シラバス作成、2月：シラバスチェック、3月 Web シラバス公開

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果の評価と卒業認定基準をHPで公表すると共に、『成績評価のガイドライン』において、以下の項目について策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。

- ①シラバスの作成と閲覧
- ②成績評価 (GPA 算出基準と算出方法)
- ③履修登録単位制限 (CAP 制)
- ④単位と学修の量

なお、①～④については、『学生便覧～学生のための手引き～』(刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開)に明示。

GPAについては、所属する学部等の中で各学生がどの位置にあるか(成績の分布状況)を把握することができるよう、学内ポータルサイトに公表する。

卒業認定・学位授与の方針(DP)と教育課程編成・実施の方針(CP)、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位)を定め公表(HP)している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の(卒業の認定及び学位)第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、『学生便覧』にて明示。(刊行物：入学時に学生へ配付/学内ポータルサイトにおいて公開)

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	124 単位	有	48 単位
	英語学科	124 単位	有	48 単位
	アジア文化学科	124 単位	有	48 単位
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース	124 単位	有	48 単位
	人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース	124 単位	有	48 単位
	人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース	130 単位	有	50 単位
	人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース	130 単位	有	50 単位
現代社会学部	現代社会学科	124 単位	有	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		(公表方法：ホームページ) ・『成績評価のガイドライン』 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		(公表方法：ホームページ) ・『学生による授業評価アンケート』 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/enquete		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	720,000円	150,000円	1.2年次 240,000円 3.4年次 210,000円	
	英語学科	720,000円	150,000円	1.2年次 240,000円 3年次 222,000円 4年次 210,000円	
	アジア文化学科	720,000円	150,000円	1.2年次 240,000円 3.4年次 210,000円	
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻	720,000円	150,000円	1.2年次 240,000円 3.4年次 210,000円	
	人間科学科 初等教育・保育専攻	720,000円	150,000円	1.2年次 260,000円 3.4年次 230,000円	
現代社会学部	現代社会学科	720,000円	150,000円	1.2年次 240,000円 3.4年次 210,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【受講に関する支援】

◎入学前教育

特に推薦入試合格者に対し、合格学科に関する分野の課題や大学の学びを体験する入学前教育プログラムを提供し、スムーズな大学での学びへの移行を支援している。2021年度より、全入学予定者について外部テストや大学生になる意識づくりの課題に取り組む案内を始めた。

◎履修指導

大学の学びで最初に戸惑うのが履修登録(時間割作り)である。授業が開講する前の新入生オリエンテーションで学科教員がしっかりフォローする。また、学内(教学支援部など)の窓口やアドバイザーによる履修指導や資格取得に必要な科目について、いつでも相談できる体制を整えている。

◎オフィスアワー

大学では、職員室はなく教員は個人の研究室を持っている。シラバス（講義内容・計画が記載された資料。Web 公開）には、教員が必ず研究室にいる時間（オフィスアワー）が記載されている。授業に関する質問や、学生生活、進路など何でも教員と話したいことがあれば利用できる。

【実習・採用試験等の支援】

◎実習支援センター

教員免許（幼稚園・小学校・中学・高校・特別支援）や保育士、福祉関連資格、学芸員などの資格取得に必要な実習に関するサポートを行っている。実習についてわからないことや不安に感じていることなどを専門スタッフが解決している。

◎採用試験等対策

小学校・中学・高校・特別支援学校の教員採用試験について、模擬授業や集団討論、筆記試験対策を教員と実習支援センターのスタッフが共同してサポートしている。センター内には学習スペースあり、参考書も配架されている。

【ICT 教育支援】

◎コンピュータ教室

キャンパス内には5つのコンピュータ演習室と2つのコンピュータ自習室を設置している。社会で必須となるPCやコンピュータ活用力を養うことはもちろん、授業の課題提出やレポート作成、就職活動でも活用できる。

◎Wi-Fi

学内にCJ-spotというWi-Fiを設置し、範囲を広げている。ノートPCやスマートフォンが活用できる環境整備を推進している。

【ピアサポート】

◎スチューデントアドバイザー

学生が談話や休憩、自習などに使うことができるスペースとして、キャンパス内に「Student Room」を設置している。講義の準備やレポート作成のために無料で使える印刷機や文具を備えている。Student Roomには、スチューデントアドバイザーという学生スタッフが常駐しており、設備の管理や学生の相談相手となっている。

◎LC スタッフ

図書館内にあるラーニングコモンズにおいて、学生の学習を支援する学生スタッフ。レポートの書き方や基礎的な学習講座、試験対策などの学習に関する企画を行うほか、常時学生からの相談にも対応している。

◎学生図書委員

図書館をよりよいものにするための学生団体。学生が本を選びに行く選書ツアーや他大学の図書館を見学に行ったり、館内展示を工夫したりといった活動を行っている。

◎MSG（ミューチュアルサポートグループ）

障がいのある学生が円滑な学生生活を送られるようにサポートする学生団体。例えば、聴覚障害のある学生が受ける授業の音の情報を文字にして伝えるノートテイクやパソコンテイクといった支援活動を行っている。「学生サポートルームラトナ」の職員とも連携して、多様な学生への支援を学生が学生のために行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

進路支援センターに学科担当及びマイノリティ（留学生や合理的配慮を要する学生など）担当を配置している。また、3年進級時（4月）から進路決定に向けた各種ガイダンスや個人面談を行い、個々人に適切な支援ができる体制を整えている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【保健室】

保健師資格を有する専任職員が常駐し、健康検診をはじめ、応急処置、健康相談、保健指導、医療機関への紹介などを行っています。

【学生相談室】

専門の知識を有する専任教員を室長とし、精神科医、臨床心理士の資格を有するカウンセラーを置き、学生相談に対応しています。

【学生サポートルーム ラトナ】

障がいがあるなどの理由により、さまざまな悩みや相談ごとをかかえる学生の相談・支援窓口として、「学生サポートルーム ラトナ」を設置しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/education_system

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110794
学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		305人	294人	318人
内 訳	第Ⅰ区分	192人	177人	
	第Ⅱ区分	76人	89人	
	第Ⅲ区分	37人	28人	
家計急変による支援対象者（年間）				5人
合計（年間）				323人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	2人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	2人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	1人		
GPA等が下位4分の1	54人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	55人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。